

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

大分県 竹田市

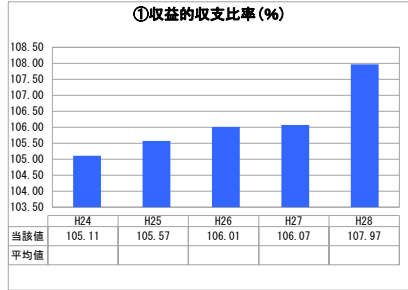
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	13.75	100.00	4,006

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
22,812	477.53	47.77
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,115	0.35	8,900.00

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

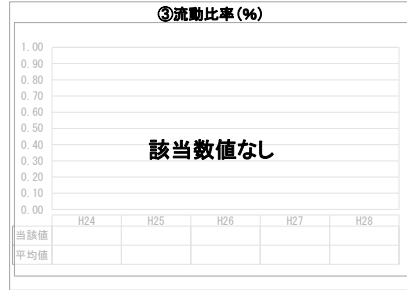
## 1. 経営の健全性・効率性



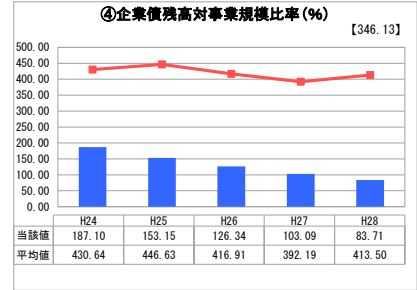
「単年度の収支」



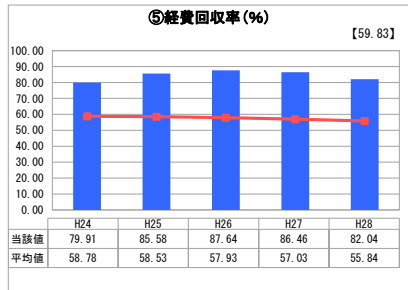
「累積欠損」



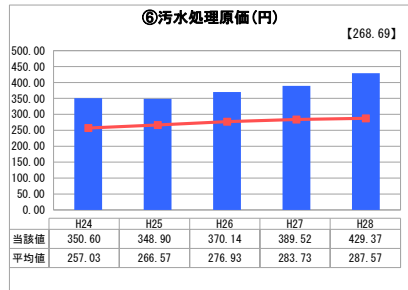
「支払能力」



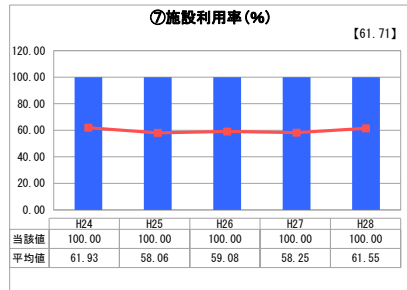
「債務残高」



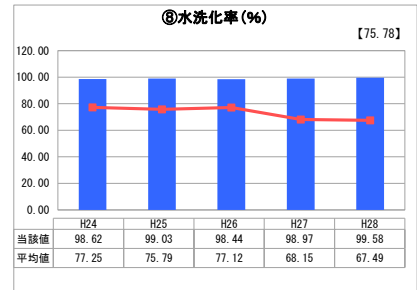
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

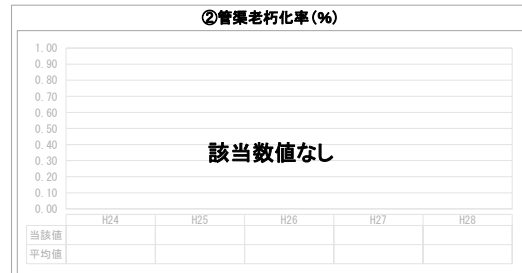


「使用料対象の捕捉」

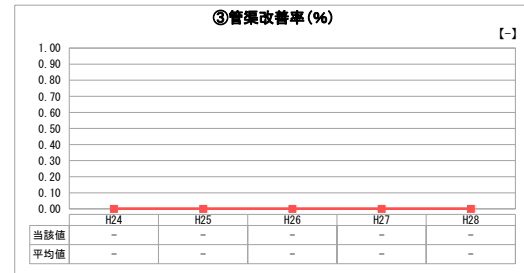
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は100%以上を超過している。維持管理費の大半は使用料収入で賄えている。  
 ②企業債務残高についてはほぼ横ばいで推移しているが、設置基数の増加で事業規模が増加しているのが、指標としては年々低くなってきている。  
 ③経費回収率は、類似団体平均よりは高いものの、100%を下回っていることから料金水準引き上げの検討が必要である。  
 ④汚水処理原価は類似団体平均に比べ高い。類似団体より汚水処理にかかる委託費と資本費が高いことが原因ではないかと考えられる。浄化槽の設置数が増加した分、使用料収入が増加したが、支払消費税も増加し、結果として原価が上がった。  
 ⑤施設利用率は平均処理能力と現在処理能力が同等のため、100%を保持している。  
 ⑥水洗化率は基本的に100%。年度内に浄化槽を設置しているが、基準日である3月31日までに供用開始ができないところがあるため率が100%となっていない。

### 2. 老朽化の状況について

平成16年度から、市町村設置型浄化槽の整備を進めており、毎年70基程度の浄化槽が設置されている。設置から10年程度が経過した浄化槽のプロアー等の修理費用が増加してきており、今後も維持管理にかかる費用が年々増加していくことが予想される。

### 全体総括

設置から10年以上経過した浄化槽に係る維持費等が増加していくことで、維持管理コストが増加していく懸念がある。平成28年度策定の経営戦略を元に、事業の直し等を含めて抜本的な改革を検討していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債務高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。